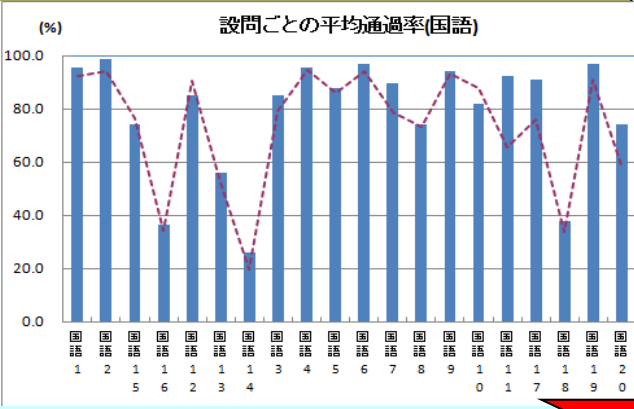
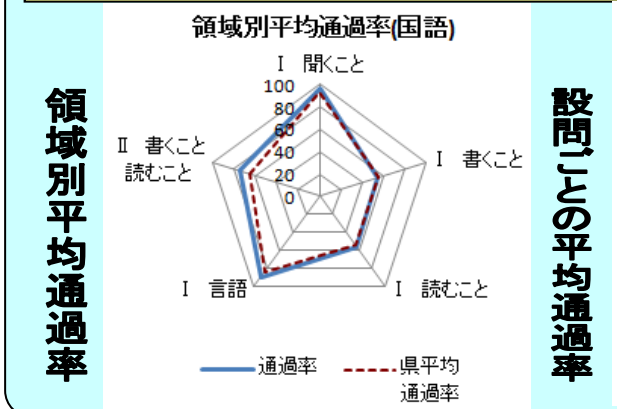


指導方法等の改善計画について〔国語科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 78.4%, 県 73.6%)

本年度の結果について



○全体的な傾向について
 国語の結果において、タイプⅠは通過率 79.3% (県平均から+3.6%) であり、タイプⅡは通過率 75.0% (県平均から+10.2%) であった。この結果から、基礎的・基本的な力は概ね身につけていると考えられる。
 領域別では、言語の領域が 88.6% (県平均から+5%) の通過率であった。しかし、書くことの領域が 55.3% (県平均から-0.1%) と県平均から下回っている。また、読むことの領域は、県平均より上回っているものの (県平均から+1.5%) 正答率が低く、書くことと読むことの領域は課題である。
 ○昨年度の課題への取組の成果と課題
 昨年度は、主述の関係 (61.5%) の理解が不十分であり、そのことが「書くこと」の領域においても、根拠に基づいた考えの記述 (48.5%) の設問において課題が見られた。この課題に対して、記述に必要な文法に関する指導とともに、根拠となる記述に線を引ながら文章を読み取る学習を継続して行い、書く機会を設定して定着の状況を確認していった。その結果として、主述の関係の理解について、90.9%の通過率であり、表現の基礎については改善が図られた。しかし、根拠を持って自分の考えを書くことについては、依然として課題である。

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

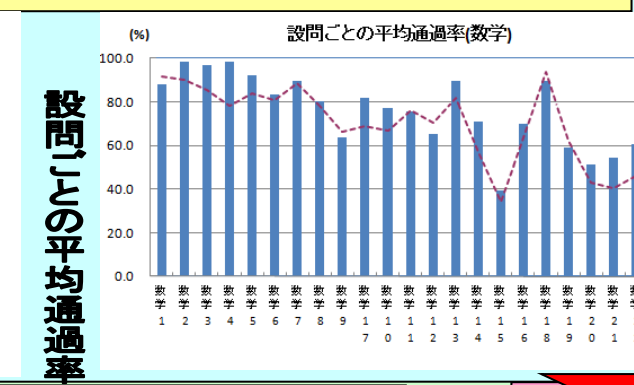
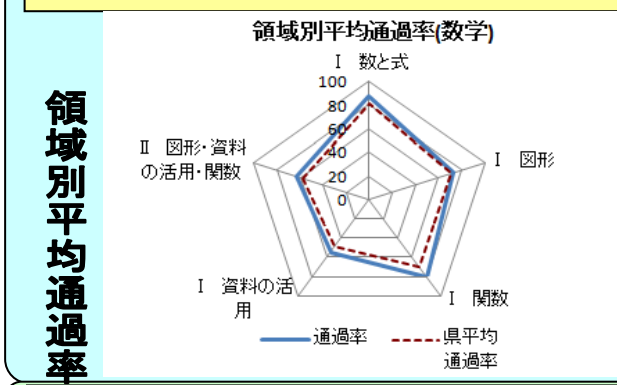
【課題 1】 書くことの領域が課題である。特に交流内容の把握の記述 (県平均通過率 76.5%) の設問において、読み取ったことを的確に記述することができていない解答が 25.8% となっている。文章の内容を読み取ることはできているが、設問に対して解答するために、文書を作成するための前提として、本文中からの的確な箇所を選び、書くことができていないことが要因と考える。
 【課題 2】 読むことの領域が課題である。特に文学的文章の読みにおいて、登場人物の心情の把握 (県平均通過率 90.3%) ができていない解答が 15.2% と課題が見られる。心情を表す様々な表現や描写を辞書的な意味や文脈に沿って正確な意味で捉えられていないことが要因と考えられる。

【課題 1】 ① 根拠となる内容を正確に表現する力をつけるために、授業において、教材の中から必要な情報を判断し、文章を作成するような学習活動に取り組みさせる。その時、それらの情報をどのように構成すれば、相手に正確に伝えられるかを判断したり、表現させたりするような指導を行っていく (思考のスキル「情報の選択」「構成」)。
 ② 設問で問われていることを理解し解答する力をつけるため、問題文に線や印を付けさせるなど、問題文を細かく読み取り記述する指導を重ねる。(表現のスキル「記述」)
 【課題 2】
 ① 授業のなかで、様々な物語文を紹介するなどして、たくさんの読み物に触れる機会を作る。(思考のスキル「関連付け」)
 ② 心情を表す様々な表現や描写等を意識して読ませるなど、文章を漠然と読ませるのではなく、読むための視点を持って学習できるように指導していく (思考のスキル「視点」)。

指導方法等の改善計画について〔数学科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.2%, 県 70.4%)

本年度の結果について



○全体的な傾向について
 数学の結果において、タイプⅠでは通過率 80.0% で県平均に比べ+5.8% であった。タイプⅡでは通過率 63.0% で県平均に比べ+5.8% であった。この結果から、基礎的・基本的な内容についての理解やそれらを活用して思考したり表現したりすることとおおむね定着していると考えられる。
 ○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
 昨年度は、領域別では数と式、関数の領域の通過率が他の領域と比べ低いという課題があった。そこで、毎授業で配布する課題プリントにおいて、各自が苦手とする領域の問題に少なくとも一問ずつ毎時間取り組ませた。その結果、タイプⅠ、タイプⅡとも県平均を上回っており、取組に一定の成果があったと考えられる。

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

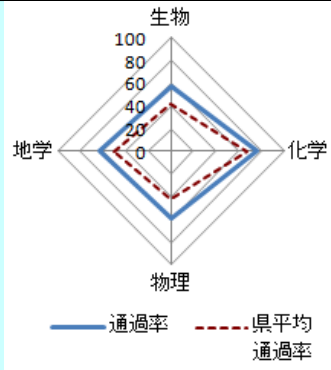
【課題 1】 「図形」の問題に課題がある。紙を 1 回折り、切って開いた時に出来る線対称な図形の問題が 2 問とも県平均より、4.6%, 3.3% 下回っている。このことは図形について実際に生活のなかで活用したり、体験的な理解をすることが不十分であったことが、要因と考えられる。
 【課題 2】 「資料の活用」の中央値を求める問題に課題がある。県平均より 5.2% 高いものの、他の問題に比べ、通過率が 39.4% と極端に低い。代表値の求め方が定着していなかったことが、要因と考えられる。

【課題 1】 線対称な図形は小学校においても学習する内容であり、紙を 1 回折り、切って広げたところを想像することができれば正答を導くことができる問題である。そこで実際に手を動かして紙を折ったり、切ったりする等の数学的活動を授業で取り入れて、体験的な理解を深める。また、課題プリントでも、図形を扱った問題を定期的に取り入れ、反復学習により定着を図る。
 【課題 2】 代表値の読み取り方が理解できていない。「資料の活用」の授業時間を十分とり、基本的な知識理解の定着を図るとともに、課題プリントで度数分布表から代表値を求める問題を定期的に取り組み、継続して定着を図っていく。

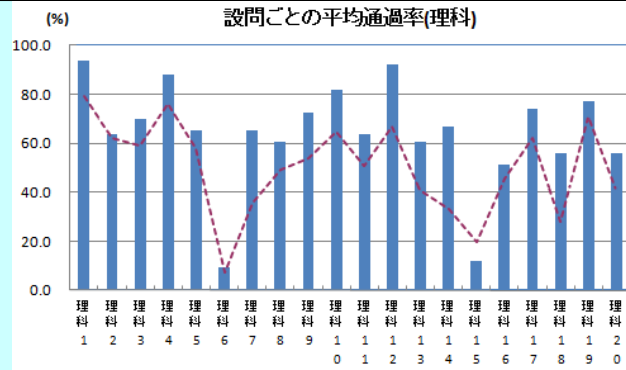
指導方法等の改善計画について〔理科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校64.0%, 県50.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
理科の結果において、タイプⅠでは通過率66.7%で県平均に比べ+15.7%であった。タイプⅡでは通過率60.0%で県平均に比べ+10.9%であった。この結果から、基礎的・基本的な内容についての理解やそれらを活用して思考したり表現したりすることとおおむね定着していると考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
昨年度は、基礎的な理科学用語を記述する問題と事象の要因について自らの考えを記述する問題に課題があった。そこで毎授業の始めに小テストを行うとともに、家庭学習とのつながりを持たせることで理科学用語の定着を図った。また実験を行う際には必ず考察を書かせるようにし、正しい考察文と比較させ修正させた。その結果、タイプⅠ、タイプⅡとも県平均を上回っており、取組に一定の成果があったと考えられる。

重点課題

【課題1】 大問③(1)の裸子植物と被子植物の花の違いについての理解が十分ではない。違う点が複数あるがそのすべてを選択できていない生徒が90.9%いることから、違いを決定づける特徴的な1つの答え以外の違いについても回答することに課題がある。(通過率9.1%)

【課題2】 大問⑥(3)のスキー板をはくと圧力が小さくなる理由を正しく書いていない生徒が87.9%いることから、事象の要因について科学的に説明することに課題がある。(通過率12.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

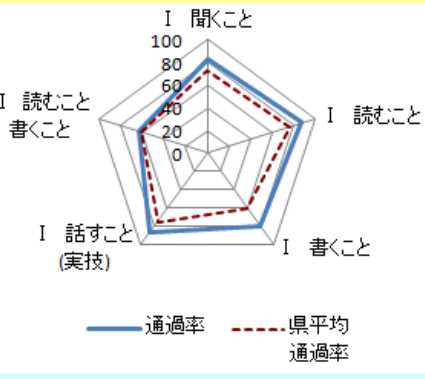
【課題1】 対立する事象についての違いについて比較する場面を意図的に設定する。その際には、違いを決定する特徴的な1つの答えだけでなく、多くの答えを書かせるようにする。また学習内容の定着を図るために、毎授業の始めに小テストを行うとともに、宿題プリントを配布する。

【課題2】 事象の原理や要因について、自分の考えを書かせる場面を意図的に設定する。書かせた後に正しい考察文を示し、自分の考察文を振り返らせ、より科学的な考察文に修正させる。その際に使用語句や考察文の型を示すなどの手立てを行い、論理的な記述ができるようにする。

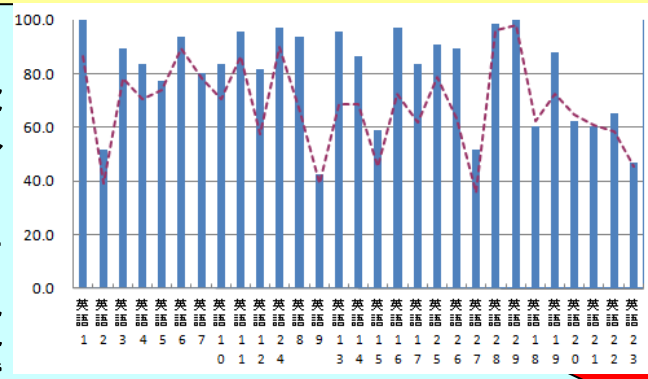
指導方法等の改善計画について〔英語科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校79.5%, 県68.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向
英語の結果においてタイプⅡにおける本校の平均通過率がタイプⅠに比べて低く、統合的な技能を用いて問題を解くことに課題が見られた。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度は聞くことと読むこと分野で課題が見られた。毎時リスニング活動を取り入れ、ALTによる活動やプレゼンテーションを聞くことによって聞く力をつけるように取り組んだ。また、身近な英文を繰り返して読むことで、英語で内容を読み取る力の定着を図った。また、英文と日本語文を対比させながら音読させることで、主語と述語の関係の定着を図り、タイプⅠ聞くこと、タイプⅡ読むことの領域における平均通過率が県平均を上回ることができ、取組に一定の成果が見られた。

重点課題

【課題1】 大問の⑤(2)基本的な文の決まりを理解した作文において形容詞を用いた文章の並びと主語述語の関係をきちんと理解していない(通過率:42.4%)。このことは、日本語と英語の語順の違いが理解できていないことが要因と考えられる。

【課題2】 大問の①①(3)適切な質問を考え英文を書くことにおいてインタビューの流れに合った質問を考え、書くことができない。このことから、与えられたインタビューのポイントを理解できていないことや、どのような言語材料を用いて疑問文を作ればよいか分かっていない事が要因として考えられる。(通過率:62.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

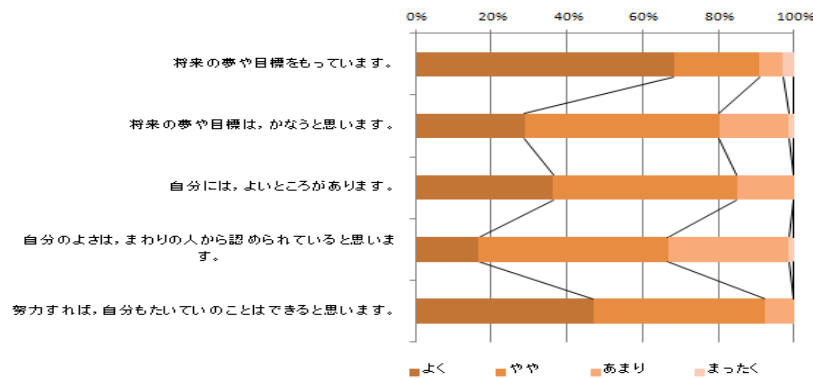
【課題1】 基本的な英文を書く際に、何が主語で何が動詞なのか語順を意識しながら、書かせる活動を行っていく。また、英文と日本語文を対比しながら音読させることで主語と述語の関係を再度定着させる。そして、既習事項と新出事項を関連した指導をすることにより、既習事項の確実な習得を図る。

【課題2】 対話形式の英文や評論文などの多様な文章を読ませる指導を行うとともに、一定のまとまりのある文章を読む際に、5W1Hを意識させて読みとる活動や、文章の要約などの指導を行っていく。また、いろいろなパターンの疑問文の定着を図るため、ALTとのQ&Aを活動の中に定期的に取り入れて、実際にその疑問文を作成し、書かせる指導を行っていく。

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

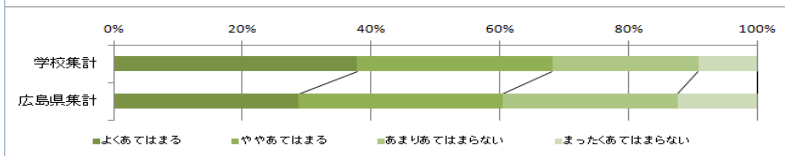
自己実現力・自己効力感



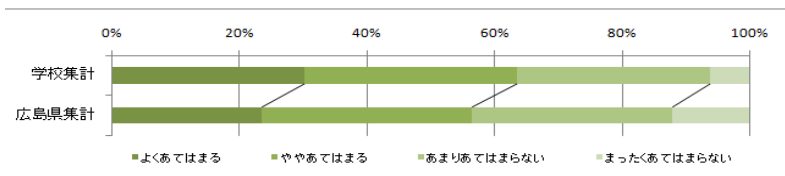
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期
昨年度より改善が見られるが、自分のよさは、まわりの人から認められていると感じている生徒が全体の3分の2にとどまっている。（肯定的評価66.7%，そのうち「よくあてはまる」と回答した生徒16.7%）	学級活動や学校行事，生徒会活動やクラブ活動など学校生活のあらゆる場面において積極的に評価する。また，生徒一人一役以上を徹底し，自己有用感を高める。	2	75%	生徒アンケート調査	3月

(2) 教科

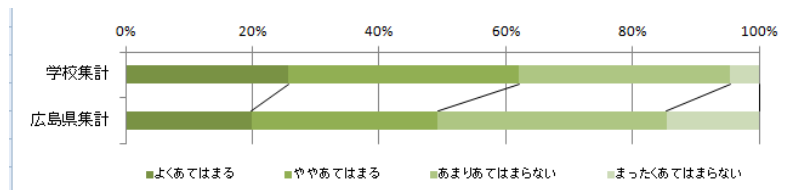
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



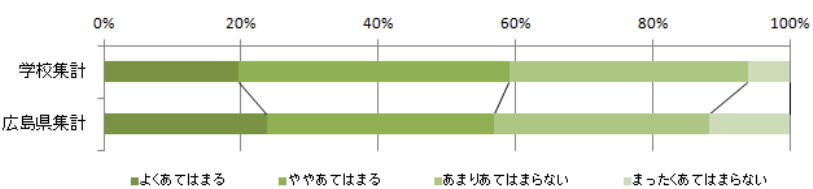
数学の授業では、式が何を表しているのか考えたり、式にあてはまる問題を作ったりしています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期
国語	「分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べている。」に肯定的な回答をした生徒の割合。 （肯定的評価68.2%，そのうち「よくあてはまる」と回答した生徒37.9%）	教室に常時辞書を設置し，いつでも活用できる環境を整える。また，辞書を活用する機会を増やし，語彙を増やす授業を仕組む。	2	75%	生徒アンケート調査	3月
数学	「式が何を表しているのか考えたり，式にあてはまる問題を作ったりしている。」に肯定的な回答をした生徒の割合。 （肯定的評価63.6%，そのうち「よくあてはまる」と回答した生徒30.3%）	課題プリントの内容に文章問題を取り入れ，問題の意味を考えさせたり，式から問題を作らせたりする。関数や図形においても，計算式や関数式から具体的な事象を想像するような工夫を行う。	2	70%	生徒アンケート調査	3月
理科	「自分の考えをまわりの人に説明したり，発表したりしている。」に肯定的な回答をした生徒の割合。 （肯定的評価62.2%，そのうち「よくあてはまる」と回答した生徒25.8%）	観察・実験を行う際には，必ず実験報告書を作成させ，生徒自らの考えを書かせる。そしてその考えをペアや小グループで発表させる機会を多く設定する。	2	70%	生徒アンケート調査	3月
英語	「自分の考えや気持ち，事実などを英語で話している。」に肯定的な回答をした生徒の割合。 （肯定的評価59.1%，そのうち「よくあてはまる」と回答した生徒19.7%）	章末の総合問題の場面では少人数の学習集団の中でも生徒1人1人に発表の場を与え，発話の時間を確保するように仕組む。	2	75%	生徒アンケート調査	3月

◇「基礎・基本」定着状況調査

平成27年度

1 結果の概要

	国語			数学		
		タイプⅠ	タイプⅡ		タイプⅠ	タイプⅡ
本校平均	78.4	79.3	75.0	76.2	80.0	63.0
県平均	73.6	75.7	64.8	70.4	74.2	57.2
県比較	4.8	3.6	10.2	5.8	5.8	5.8

	理科			英語		
		タイプⅠ	タイプⅡ		タイプⅠ	タイプⅡ
本校平均	64.0	66.7	60.0	79.5	83.5	63.9
県平均	50.2	51.0	49.1	68.2	70.2	60.6
県比較	13.8	15.7	10.9	11.3	13.3	3.3

2 今後の指導

各教科ごとの「指導方法等の改善計画」に沿って、課題の改善を行っていきます。中間テストや期末テストの結果をもとに、改善の取組が適切であったのかどうかを振り返りながら、よりよい教科指導を行っていきます。